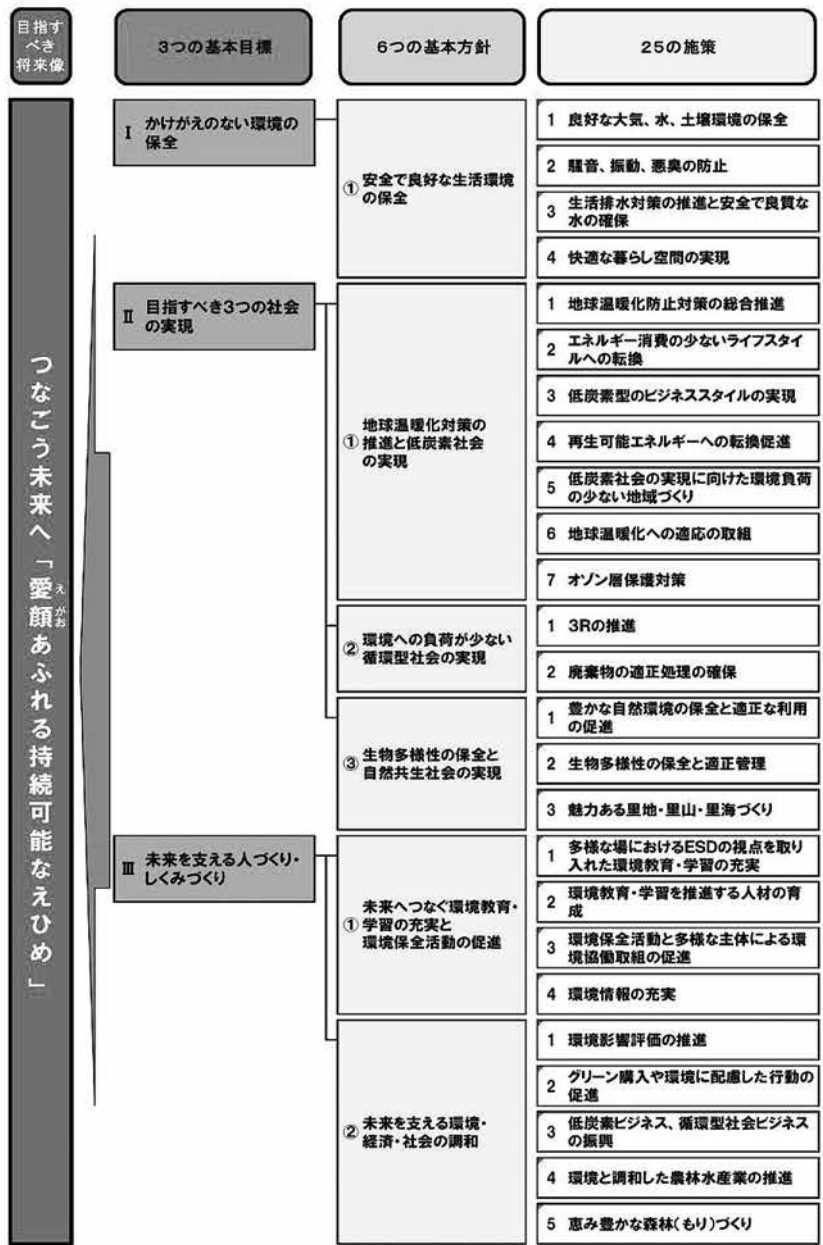


主 な ト ピ ッ ク ス

第二次えひめ環境基本計画の策定

愛媛県では、平成22年2月に策定した「えひめ環境基本計画」が平成26年度末で計画期間が終了したことを踏まえ、取組を承継しつつ、新たな環境課題にも適切に対応できるよう、「第二次えひめ環境基本計画」を策定しました。

この計画では、喫緊の課題となっている「地球温暖化対策」や、新たにESD（持続可能な開発のための教育）の視点を取り入れた「環境教育・学習」について、取組を追加するなど、より重点的に推進するほか、細かな取組は各分野の個別計画に任せるなど、計画の構成をより分かりやすいものとしています。



【「第二次えひめ環境基本計画」の施策体系】

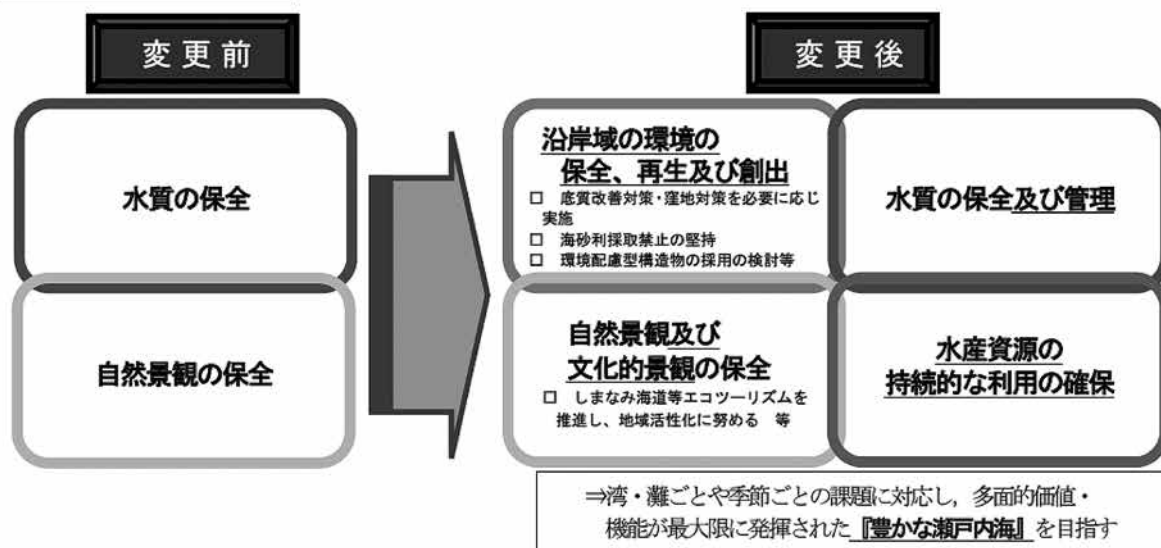
瀬戸内海の環境の保全に関する愛媛県計画の変更

瀬戸内海は、我が国のみならず世界においても比類のない美しさを誇る景勝の地として、また、国民にとって貴重な漁業資源の宝庫として、その恵沢を国民が等しく享受し、後代の国民に継承すべきものです。この認識に立って、それにふさわしい環境を確保し維持すること及びこれまでの開発等に伴い失われた良好な環境を回復することを目途として、環境保全に係る施策を総合的かつ計画的に推進するため、国において、瀬戸内海の環境の保全に関する基本となるべき計画として、瀬戸内海環境保全基本計画が定められています。

平成 27 年 2 月、瀬戸内海の多面的な価値及び機能が最大限に発揮された「豊かな瀬戸内海」を目指すという観点で「瀬戸内海環境保全基本計画」が変更されました。このことを踏まえ、愛媛県の基本計画となる「瀬戸内海の環境の保全に関する愛媛県計画」の変更を行いました。

なお、この計画は、本県の区域における瀬戸内海の環境保全に係る施策を総合的かつ計画的に進めるために定める計画であり、引き続き、計画に基づき各種施策を講じることとしております。

【主な変更ポイント】



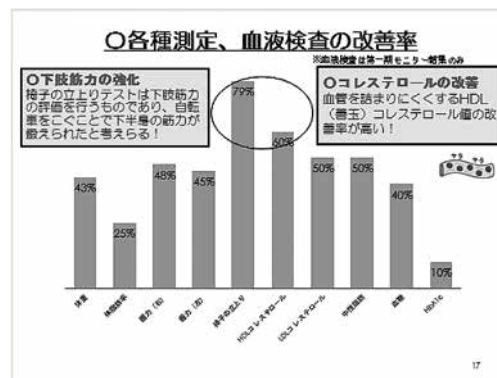
自転車ツーキニストモニター事業の実施

県内事業所等に自転車通勤のメリット等を広く周知し、バイクや車通勤から地球にやさしい「自転車通勤」への転換を促進するため、実際に一定期間自転車通勤を行い、血液検査等の実施により健康増進の効果等も検証する「自転車ツーキニスト」モニター事業を実施しました。

モニター事業には県内 11 事業所の 40 人が参加し、期間中自転車通勤に切り替えたことで約 2,645kg の二酸化炭素を削減するとともに、運動不足の解消にもつながったなどの意見が寄せられました。



【事業説明会での様子】



【モニター事業参加者の血液検査等結果】

エコビジネスの支援

循環型社会の構築を目指すため、他の模範となるようなリサイクル製品や廃棄物の 3 R に積極的に取り組む事業所やエコショップを優良モデルとして認定し、環境イベント等において広く県民に周知し、優良モデルの認知度向上を図るとともに、県と認定事業所等が協働で県外の大型展示会へ出展し、リサイクル製品等の販路拡大を行うことで、エコビジネスの支援を行っています。

○3R企業エコツアーの開催

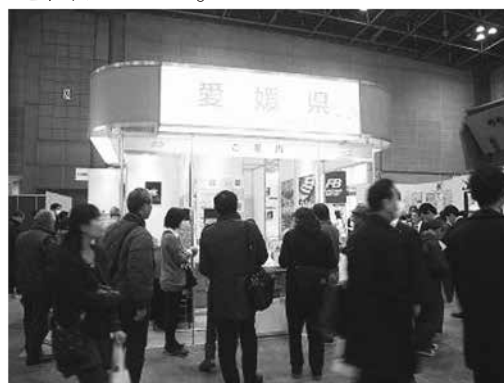
小学生の親子等を対象に、認定事業所やリサイクル製品の製造現場を見学するツアーを実施し、事業所が取り組む 3 R 活動の周知を図りました。

○エコプロダクツ 2015 への出展

日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ 2015」に、愛媛県ブースを出展し、愛媛県資源循環優良モデル認定企業 4 社と協働で、認定製品や廃棄物の 3 R に関する取り組みを PR することで普及啓発及び販路拡大を図りました。



【3R企業エコツアーでの石紙製造体験】



【エコプロダクツ 2015 愛媛県ブース】

県災害廃棄物処理計画の策定

近い将来、発生が想定される南海トラフ大地震といった大規模災害時には、建物倒壊等による災害廃棄物が一時的かつ大量に発生し、早期復旧の大きな阻害要因となることが懸念されています。このため、県では、東日本大震災等の経験を踏まえて国が策定した「災害廃棄物対策指針（26.3）」に基づき、「県地域防災計画」や「県地震被害想定調査」を踏まえ、学識経験者等で組織する「県災害廃棄物処理計画実務専門者会議」を設置・運営し、その意見・助言を得て、パブリックコメントを行った上で、県災害廃棄物処理計画を策定し、平成28年4月に公表しました。

今後の課題としては、実効性のある「オール愛媛」の災害廃棄物処理体制を構築するため、各市町において、国の方針に基づいて、県計画と整合のとれた市町計画を早期に策定することが重要であることから、平成28年度は、災害廃棄物対策フォーラムや市町向けの説明会の開催、市町ヒアリングの実施により、県計画の幅広い周知を図るとともに、市町に対し、きめ細かな支援・助言を行って計画策定を加速化していくこととしています。

なお、「えひめ震災対策アクションプラン」においては、平成30年度までに、県内全市町において、市町災害廃棄物処理計画を策定することを目標に掲げています。



【県災害廃棄物処理計画実務専門者会議での協議】



【東日本大震災 南相馬市：災害廃棄物仮置場】

自然観察会 i n 大三島「島の生きものたち」

生物多様性保全・再生モデル地区推進事業を実施している今治市大三島において、親子を対象にした自然観察会、トークショー&伯方の塩工場の見学、郷土料理体験を行い、地域の自然と生きものの恵みを丸ごと体感する機会を提供することにより、生物多様性保全の意識醸成を図りました。(平成27年7月26日)

子ども達が参加する自然観察会については、このほかにも県内各地で実施しています。

○自然観察会 i n 大三島

県生物多様性センターと民間団体（NPO森からつづく道、大三島の自然を守る会）が連携し、田んぼの生きもの観察（特定希少野生動物：ナゴヤダルマガエル保護区）と干潟の生きもの観察（伯方の塩工場前の海岸）を実施。

○伯方の塩工場見学&

トークショー『いきものとトゥギャザー！MOTTAINAIもシンクしよう！』

伯方塩業株式会社の協力により大三島工場を見学した後、国連生物多様性の10年日本委員会の生物多様性リーダーでもあり、地域の環境保全活動にも取り組まれているルー大柴さんを迎え、ご自身の活動を通していきものの「いのち」のつながりを語るトークショーを開催。

○「大三島丸ごとキッチン」（郷土料理体験）

ところてん作りのほか、郷土料理のたこ飯、いぎす豆腐を堪能。



【田んぼのいきもの観察】



【ルー大柴さんトークショー】